



「五月雨の 晴れ間にいでて 眺むれば 青田すずしく 風わたるなり」

良 寛

(五月雨(梅雨)の止んだ合間に小屋を出て眺めてみた。青々と広がる稲の田に初夏の風が涼しげにふきわたっているよ)

長雨が続き、うっとうしい季節ですが、この雨が、稲の穂を育ててくれる恵みの雨です。また、しっかりと紫陽花や花菖蒲などの花も咲く季節です。この時期に咲くきれいな花を楽しみましょう。

世の中で一番・・・

みなさんは、下記のような言葉、聞かれたことがありますか？

- 一 世の中で一番楽しく立派なことは、一生涯を貫く仕事を持つという事です。
- 一 世の中で一番みじめなことは、人間として教養のない事です。
- 一 世の中で一番淋しい事は、する仕事がない事です。
- 一 世の中で一番みにくい事は、他人の生活をうらやむ事です。
- 一 世の中で一番尊い事は、人のために奉仕して決して恩に着せない事です。
- 一 世の中で一番美しい事は、全ての物に愛情をもつという事です。
- 一 世の中で一番悲しい事は、うそをつく事です。

これは、「福澤心訓」といわれているものですが、実際は福澤諭吉が著したものではありませんとも言われています。真否はともかく、この言葉は現代においても十分通用し、心がけなくてはならないことばかりではないでしょうか。

現代は、諭吉が生きた時代とは大きく変わりました。価値観が多様になり、何が正しいことなのか、何が大切なのか、なかなか分かりにくい時代になりました。しかし、昔も今も正しいこと、大切なことは変わらないのだと思います。この「心訓」も、時代を超えて、残していかなければならない言葉なのでしょう。

皆さんのご家庭で、この「心訓」をもとにお子さんと話し合ってみられませんか。中学生や高校生であればこの言葉のままで話し合いができるでしょう。小学生であれば少し分かりやすい言葉にして話せば理解できます。「世の中で一番〇〇なことは？」と子どもに問いかけてみましょう。あなたのお子さんは何と答えられるのでしょうか。親子で面白い問答ができるのではないのでしょうか。「青少年育成センターだより第63号」において、“家庭でできる道徳教育”を提案しましたが、この「心訓」を使って生き方について考えることができます。このような話し合いはなかなかできないよという家庭があれば、これを書き写して目に留まる場所にでも貼っておくという方法もあります。

3. 11の東日本大震災時の大変な最中での日本人の行動の素晴らしさが世界の人から賞賛されました。また、皆さんがよくご存じのフランシスコ・ザビエルが当時の日本人を見て「とても気品があって、驚くほど理性的、慎み深く、また才能があり、知識が旺盛で、道理に従い、その他さまざま優れた素質を持つ」と記載しています。まさに、日本人の心の中にこのような「心訓」の精神が定着していたからなのでしょう。かつては、このような言葉がいつも日本人の心の中に在り、生きていくうえでの指針になっていたのだと思います。これからも、私たち日本人の心に残すためにも子どもたちに伝えていきましょう。